

千代田区見守り隊 ボランティア移送



代表
横山 四郎 さん



地域のあたたかさが 高齢者の移動を支える



事務局
仲村 孝良 さん

千代田区のボランティア移送とは、千代田区に住む高齢者が自立した生活が送れるよう、買い物の「足」を確保しようという取り組みです。実現までの道のりは大変でしたが、特別養護老人ホームいちごの里の協力を得て、活動2年目に突入することができました。

ボランティア移送の利用者は毎回5人程度。7月には希望者が3人増え、さらなる広がりを見せています。私たちは、他にも登下校の子どもの見守りも行っています。何より嬉しいのは「ありがとう」の一言。活動を通して地域全体を盛り上げていきたいです。



EVバス



伊豆箱根バス(株)では、沼津駅―沼津港間において、令和2年3月より、国内初の民間事業者路線バスとしてEVバス(eCOM-10)を運行しています。

この電気で動くバスの走行スピードは、時速19km未満。窓ガラスがない開放的な作りとなっています。運行区間の約2kmを15分かけて低速走行するため、景色をのんびり楽しむことができます。車体の色は駿河湾をイメージしたネイビー色の環境にやさしいバスです。

未来 FUTURE DAYS



東海自動車株式会社

バス計画部 計画課長
和泉澤 貴治 さん

観光客や高齢者など 新たなバスの可能性を模索



大正6年(1917)に伊東自動車株式会社として創業してから現在まで、バス一筋で経営をしてきましたが、利用が減少していることをひしひしと感じています。ターゲット層を拡大するため、伊豆という地域柄を利用して観光客向けの運行やバスツアーの実施をしています。

高齢化が社会的な問題となっていますが、公共交通に与える影響も大きいと考えています。これまで自ら車を運転して移動をしていた人たちが高齢になり、免許を返納したときに最後の移動手段となるのが公共交通です。しかし、免許を返納したときにはすでに身体が弱り、バス停まで歩けない場合もあります。必要なときに使うことができないという状況を回避するため、免許の返納前にマイカーと併用してバスを使ってみたいのです。意外にもよく言われるのが「バスの乗り方が分からない」ということ。小学生向け教室だけでなく、免許返納を見据えて高齢者向けの教室も出張で行っていますので、ぜひご相談ください。



コントロールセンター



自動運転バス



静岡県では、「しずおか自動運転Show CASEプロジェクト」として、自動運転などの最新技術を活用した移動サービスによる地域交通の課題解決の検証を行っています。検証は松崎町・沼津市・掛川市で行っており、それぞれのコントロールセンターでは、自動運転車のカメラ映像やシステムの動作状況、車両位置などの運行状況を監視しています。県では、令和6年からの運用開始を目指しています。